

東坂ハイキングコースを感じて歩く。



距離：約 1100 m
所要時間：約 30 分
植物お楽しみレベル



歴史お楽しみレベル



ハイキングレベル



(途中から岩場にでると急な所があり、強風の時には注意が必要)

楽しめる眺望：南方向

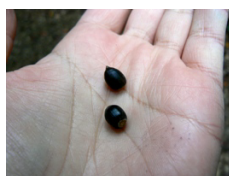
登山道入り口：

岩戸公園北側

岩戸公園から金華山の南東の尾根を登り山頂へ向かうコース。登り口付近には、ツブラジイやアラカシなどの常緑広葉樹の森が広がり、シダ植物等も見られる。登るにつれ岩場の露出が目立つようになります。その岩場からは、岐阜市の南東部や各務ヶ原市にかけての景色を楽しむことができます。

COURSE GUIDE

ツブラジイの森 ①



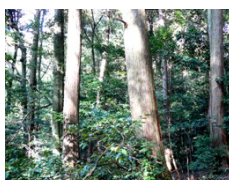
岐阜市の木となっているツブラジイは、5月ごろに独特の香りのする薄い黄色の花をつけます。また、花のつくころには、山全体が黄金に輝いているように見えます。昔は、秋になるツブラジイの実を炒って食べられていました。

妙見道・妙見峠 ②



ツブラジイの森を抜け、森が開けた所が妙見峠です。昔、市街地から達目洞への抜ける道としてや達目洞にある妙見宮への参拝道として利用されていました。また峠の中央にはかつて金華山が、宮内庁(くないちょう)管理だったことを示す石柱が今も残っています。

金華山のヒノキ・アカマツ林 ③



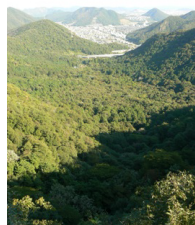
妙見峠を過ぎると、アカマツやヒノキの林が広がります。天然のヒノキ林は、本来もって標高の高い所に分布するので、金華山のように低い山に分布しているのは珍しいと言われています。

金華山のシダ類 ④



岩場や道端で様々な形のシダ類が見られます。ヒモのように垂れ下がっているシランや円盤状のマメスダ、道端ではウラボシやコシダなどが見られます。シダ類は、胞子の形や胞子のつく位置からその種類を見分けることができます。

南東の眺望 ～達目洞～ ⑤



岩場から南東の方角を望むと、緩やかな斜面に広がる森と達目洞が見えます。達目洞にはヒメコウホネをはじめ、現在も貴重な自然が残っています。これらの自然は、金華山からの湧き水によって育まれています。

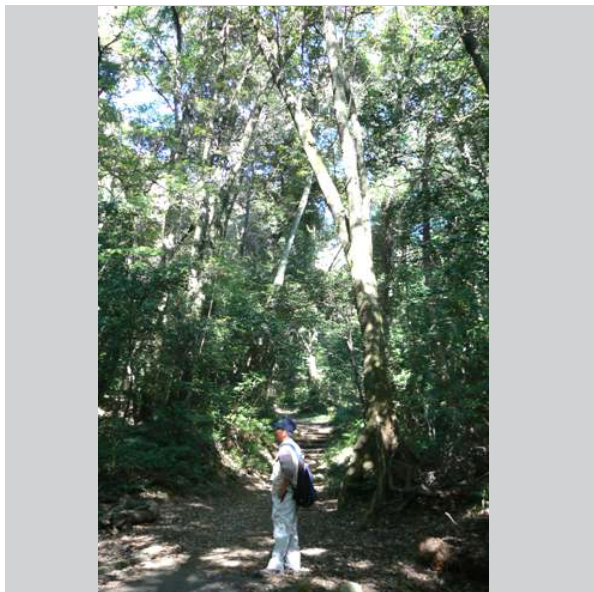
笑い閻魔大王 ⑥



閻魔大王といえば「怖い顔・怒っている顔」をイメージがありますが、金華山に祀られている閻魔大王は、福德円満な笑みをうかべています。この閻魔大王は、「鬼門・悪病よけ」また「美濃の繁栄」を祈願し祀られたと伝えられています。

くわしくは裏面へ

東坂ハイキングコースの植物の移り変わり



コースに入るとまずツブラジイの森が広がっています。ツブラジイは1年を通して青々とした葉をつけるため、いつも森の中は薄暗くなっています。そのため、薄暗く湿度の高い森を好むシダ植物も見られます。

ツブラジイの森を抜け、尾根を登っていくと少しずつ光が差し、ゴツゴツとした岩場となります。岩場では乾いた所や、やせた土地でも生育できるアカマツやツツジなどがみられます。

その先の頂上付近では、アベマキやコナラといった落葉広葉樹の林が広がり、秋にはたくさんのドングリをつけます。

このように、登り口や中腹・頂上付近と場所によって植物も変わってきます。木や植物の移り変わりをコースごとに気にしてみるとコースによっても変化があり、金華山全体の植物の変化を楽しむことができます。



妙見道を通して・・・。

登山口からツブラジイの森を抜け、尾根上の開けた所は妙見峠です。また、岩戸公園から妙見峠へと通じる道は妙見道と呼ばれ、達目洞にある妙見宮への参拝や市街地から日野方面へ抜けるときに使われていました。妙見道を抜けた先の達目洞には、かつて臼井岩入（うすいがにゆう）という武芸の達人が、原野であった達目洞を開墾（かいこん）して居を構え、「御山（金華山）」を守っていた言われています。また、その子孫も江戸時代の終わりまで「御山」守っていたと伝えられています。

ツブラジイの根はなぜ土からでているの？

東坂登山道の登り口付近では、写真のようにツブラジイの根が地上にせり出し、板状になって成長しているのをよく見かけます。これを『板根（ばんこん）』といいます。これは、温暖な地域の植物の特徴で、表土の薄いところでも幹が倒れないように根がこのような形で成長をすると考えられています。



チャートってなに？



チャートは岩石の1つで非常に硬く、昔は火打石としても使われていました。チャートは海にただよっていた放散虫（ほうさんちゅう）という生き物が1,000年に数mmといわれるほどゆっくり、海底に降り積り固まってできた地層です。チャートの中の放散虫を詳しく調べると約2億6000～2億3000万年前に海底で堆積したものだとなりました。このことから2億3000万年前、金華山周辺は海だった言われています。そこから何億年という時をかけて隆起（りゅうき）し陸地となったのです。金華山では何層にも重なったバウムクーヘンの様なチャート層をあちこちで見ることが出来ます。